

アレルギー体質のめまい

男性 五十三歳 県庁職員

主訴 めまい、鼻、咽喉違和感

現病歴 数年来の花粉症。来院時はメニエール病を20日前に再発していた。アレルギー体質（痒みが出やすい）、咽喉の違和感は長期に渡る。左耳鳴り10年来。

所見 脈は「沈やや虚」、右天枢（+）、魚際（+）、典型的な「肺実の証」だが、沈脈は症状が長期に渡っていることを示唆している。他に特記すべきものはなし。

処置 「扁桃」「アレルギー」「肺実」各処置。

経過 めまいは2回の治療で消失。その時の所見は「沈やや虚」、腹（-）、火穴（-）、胃経（+）。処置は「扁桃」「アレルギー」「胃の気3点」各処置。以降、めまいの再発なし。

60日後に来院された時は鼻風邪から花粉症の症状があり、咳もでていた。脈状は「沈・遅」、右天枢（+）、他は（-）。「扁桃」「アレルギー」「肺実」各処置、「内ネーブル4点」には皮内鍼。それ以降、3週間で3回来院されたが、鼻の具合は良くなる。その都度、皮内鍼は貼り替えた。

81日目に来院された時は「沈」はあまりなく、わりと浮いていた。その後2ヶ月余り経って再院。咽頭痛から咳が出ていた。脈は「沈やや遅」、腹（-）、火穴（-）、天牖（-）、「扁桃」「アレルギー」「副腎」各処置をする。

その後、10日間で2回来院し、2回目の時は症状もほぼ消失、「沈」もなくなっていた。

考察 「沈遅」は「自律神経系、内分泌双方の低下、血行障害、反射機能の低下によって全身倦怠感、腰痛、頸肩のこり、足腰の冷え、耳鳴り、めまい、不眠、神経痛、関節や筋肉の痛み、生理不順などが現れる」ということである。

この患者はアレルギー体質の上に、症状が長期に渡り、多くの仕事を抱え、それゆえにこのような脈状を呈していたと思われる。経過をみてもわかる通り、「沈」が消失することによって症状も消失していった。大事なことは脈状の変化を認識することである。

それから処置の中で「アレルギー処置」特に「内ネーブル4点」の皮内鍼が奏効していた。彼曰く「鼻がむずむずして少し具合が悪いなと感じたとき、何回かテープがとれていることがあった。これがきちんとついていると安心した」と。

アレルギーに関してはまだわからないことが多い。しかし、患者が少しでも楽になる治療をしていくのが私たちの務め。多くの臨床家の先生方の追試、検証を願っています。